

月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>



2021

3

| | |
|------------------|-----|
| 無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし | 4 |
| 会員雑詠集「無人駅」 | 7 |
| ■例月句会結果■ | |
| おかじょうき川柳社 2月誌上句会 | 19 |
| 川柳吟行会「ぼ」 | 26 |
| 十和田たてがみ川柳会1月句会報 | 23 |
| ■連載■ | |
| 「深艘心理」 奈良一艘 | 18 |
| Infomation | 30～ |

カンテラ

まよわし

依然として新型コロナウイルスが猛威を振るっています
が、その勢いが徐々に落ち着いて来たような気がします。
ということで、当柳社例月句会を4月から青森駅前アウ
ガの5階小会議室で従前どおり開催することにしました。

選者は、宿・席題とも当日選出します。

川柳は座の文芸、句会が集まってやらないと気合いが
入りません。

マスクして、張り切ってご参加いただきますようよろ
しくお願いします。

それでは、カンテラに明かりを灯しましょう。

A群

モナリザと目と目で話すな〜んてね

辻井洋子

たのですが、ウイキペディアに「日本では明治30年代ま
で月明かりの夜に行われることが多く」と書かれていて
驚きました。句では「気がします」とうまく逃げていま
すが、もしかしたら静さんは生まれ落ちたときから今も
月が出ると誰かと「影ふみ」をしているのかもしれないま
ん。夜の「影ふみ」、風雅だ…。

B群

神様の返歌三日三晩の雪風

吉見恵子

生きていくつもりこの先カーブです

柳谷たかお

嘘をつくと曲がってしまう薬指

村上あつこ

手に残るセロリの匂い計報欄

熊谷冬鼓

空想のいたるところに覗き穴

石橋芳山

なんだかなあ道頓堀に絆創膏

岩根彰子

選ぶならオーボエ 二級酒の個性

宮井いずみ

銀座から馬一頭を連れ戻す

田久保亜蘭

田久保亜蘭さん、「銀座から馬」ですか…。「連れ戻
す」って、その馬オス？メス？亜蘭さんのことだからた

揺さぶってみてよ乱れてみたいもん

夏草ふぶき

設置基準内です散歩に出ます

鳴海賢治

お愛想はくしゃくしゃにしてポケットに

ままこ

おち葉ふむ又くる秋もふめるよう

村上てる

手を放す 来るべき時が来てしまっ

斎藤泰子

あれ以来心が濡れる片時雨

きざらぎ彼句吾

マスク三枚重ねて本能寺へ

守田啓子

いだかれてどこもかしこも行き止まり

吉田州花

トシさんに会えたでしょうか文字さん

葉 閑女

影ふみをずっとしてきた気がします

ひとり静

ひとり静さん、「影ふみ」がお好きのようですね。「影
ふみ」を広辞苑で引くと「相手の影を踏み合う子供の遊
び」です。私は日中に行われる遊びだとばかり思ってい

ぶんメスでしょうね。「銀座から」だけど、元は亜蘭さ
んのところにいたはずだから競走馬とかポニーとかじゃ
なく鞍馬ばんばのような気がするなあ。おフランス生まれの体
重トンを超えるペルシユロンだったりしてね。ケガし
ないように、させないようにちゃんと連れもどすんです
よ。あれ??何のために「連れ戻す」んだ?

C群

痛くない形に曲げてみる明日

米山明日歌

これよりは弔詞「惑星」第4曲ジュピター

奈良一艘

ドがいのそれならドにもしてあげる

芝岡かんえもん

春暖の候 乾燥キクラゲのくびれ

三浦蒼鬼

肌荒れしている専用駐車場

小野五郎

米山明日歌さん、「明日」を「曲げてみる」とは変わっ
たことをしますね。いつも同じ「明日」ではつまらない
ので「曲げてみる」ことにしたのでしょうか。でも、痛
いのを我慢してまで曲げるのはつらい。そんなところか
な。毎日毎日同じ明日を迎えるというのはある意味つま

らないことですが、私なんか、体調が優れないといつもどおりでいいから普通の明日が来て欲しいと思ったりします。あ…、私は壊れた老人だけど、明日歌さんは元気なんだからね…。

奈良一艘さん、ホルストの組曲『惑星』第4楽章「木星」を「弔詞」にするなんて粋ですね。「ジュピター」と言えば、平原綾香の最初のシングルで、デビュー曲でもあります。この句の「ジュピター」は管弦楽曲でしょうか、それとも平原綾香の歌でしょうか。そして、誰のお葬式なのでしょう。そしてそして、亡くなった方は「ジュピター」が好きだったのでしょうか。それにしても、定型を派手にねじ曲げますね。

芝岡かんえもんさん、この句の「ド」って、ドレミファの「ド」ですよ。ね。「度」でも「土」でも「C」でも「奴」や「怒」でもないですよ。ね。ところで、この句は「ド」にしてあげる「じゃなく」ドにもしてあげる」と「も」が入っているんですね。「も」が入ると句が突然複雑になるのですが、かんえもんさんはそこをわざと狙っているような気がします。

三浦蒼鬼さん、「キクラゲ」がお好きですか。「キクラゲ」はききくらげ【木耳】①担子菌類のきのこ。山中の朽木、殊に広葉樹に群生。形は人の耳に似、濃い茶褐色で寒天質。白色のシロキクラゲもある。干して食用とし、特に中国料理で常用。②俗に、人の耳。と広辞苑に出てきます。この句の「キクラゲ」は、語釈②の「人の耳」のよな気がしてきました。美しい女性の耳を乾燥させ、クニクニユのところを蒼鬼さんは「くびれ」と称して愛している。そして、春の暖かさを思っている。違うかも…。にしても、異様なスタイルの句。

小野五郎さん、どうしたんですか。五郎さんの「専用駐車場」のどこに「肌」があるんですか。もしかしたら、この「専用駐車場」というのは奥様のことじゃないでしょうね。「実はそれなんです」なんて言うと、前・東京五輪・パラリンピック組織委員会森喜朗会長の問題発言のようで、女性蔑視だと大いに非難されますよ（笑）ということで、五郎家の五郎専用駐車場の舗装が痛んできたという事にしておきましょう。違うだろうな…。

無人駅

★無人駅2月月間賞

長女という付箋の下が痒くてさ

村井規子

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

これよりは弔詞 「惑星」第4曲ジュピター
蜃気楼を同封いたします。友よ
涙腺は液化前立腺肥大症
忘れないこと忘れ去ること 白夜
国民に告ぐ！葬式饅頭食べなさい

先月号のお気に入り
三本はこの鍵だかわからない 宮井いずみ
その鍵は人の心を開く鍵。ナンテ、知らんけど…

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

蛸の脚足らぬ三寒四温かな
設置基準内です散歩に出ます
一概には言えない他人の空似
五十代後半今日は大事な日
いろはにほへと生活の一部です

先月号のお気に入り
しみじみと飲んだら父がいなくなる 小野五郎
何故だろう、と思ったことが私を引き止めた。

ひとは【ひとは・青森県黒石市】

本題になると指先むず痒い
雪かきは二の次になる再雇用
剪定をされて野心が芽吹かない
のんのんと雪抱きしめるなら今…
裸木になって涙も出やしない

先月号のお気に入り

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

空真つ赤ベルシャの姫をふと思う
影ふみをずつとしてきた気がします
もういいか景色の中のオムライス
雪が降る本気ではないからきれいややこしい闇がそこから動かない

先月号のお気に入り
満月が落ちてくるまで待ちましょう むさし
目的があれば待つのは楽しい。

まきり【まきり・青森県青森市】

穴はなし独りぼっちの包囲網
昼の月キリンとカバが寄ってくる
吊し上げくつた夕陽と朝帰り
お愛想はくしゃくしゃにしてポケットに
待つことに慣れすぎました凧の海

先月号のお気に入り
あれやそれ探して電池切れになる 熊谷冬鼓
分かるなあ。一晩寝て何とか充電しています。

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

存分にたたかう右腕左足
まだ余力ありす空と談談中
そう言えば音信不通のエトセトラ
邪魔しないお一人さまの時間割
都合よい解釈をする楽天家

先月号のお気に入り
破れ傘思わぬときに役にたつ 渡邊こあき
何だっって使いまっ、見つけてあげたのがすばらしい。

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

春暖の候 乾燥キクラゲのくびれ
全力で走りたくなる四面楚歌
振り出しに置かれたままの象の足
僭越ながら完璧なトコトンである
バラ線を笑顔で越えたスルメイカ

先月号のお気に入り
迷路から逃げて迷路を探してる 夏草ふぶき
迷路って常習性がありますよね。

宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

そんな気分じゃないと黙り込むルンバ
クツシヨンの蓮はしゃかりき咲くタイプ
曇から雨にぬくもる君の声
現実を見ればゆるゆる下り坂
選ぶならオーボエ 二級酒の個性

先月号のお気に入り
わらわらとカピバラ知りもしないくせに 奈良一艘
何か面白いことが起こりそうだと付いてきたのです。

村井規子【むらいのりこ・青森県大鰐町】

ステイ・ホーム歩行能力奪われて
どう死ぬか長女の性かふとよぎる
何もかもそぎ落とされて絵文字
術跡が手相になってほしい春
くしやみしたくらいで消えた没句だな

先月号の
お気に入り

すぐタテに振るなど首に言っておく 村上てる
最近の日本のテレビは下手すると洗脳されます。気をつ
けなくちゃ

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

おち葉ふむ又くる秋もふめるよう
米を研ぐ明日着る服を考えて
ゴールへの階段に残る玉の汗
時々擬態となつて生きてきた
前向きに生きてたく窓をすこしあけ

先月号の
お気に入り

支えてるものあり支えられている 土田雅子
同感です 私も毎日この気持ちですごしています

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

配置転換したコロナの暴走
他人事のように聞いてたクラスター
ステイホーム骨粗鬆症の肥満体
晴れだつて良い日悪い日普通の日
嘘をつくと曲がつてしまう薬指

先月号の
お気に入り

何かにかぶれ大きくなってきた頭 小野五郎
何にかぶれたのか気になります。まさか漆じゃないです
よね 新興宗教？

守田啓子【もりたけいこ・青森県青森市】

私の代わりにクレベリンを置く
謀反なのかツンツンとチューリップの芽
何を企んで地吹雪猛吹雪
パルスオキシメーター外せば下剋上
マスク三枚重ねて本能寺へ

先月号の
お気に入り

私より豚バラ肉が役に立つ 村井規子
絶妙です。私の事です。

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

五体投地春夏秋冬春となる
ダイヤモンドダスト本当の気持ちを言います
手のひらの幸はらはら零れ梅
ねこやなぎ白い夢つづくたぶん春
結んで開いて結んで開いて春がくる

先月号の
お気に入り

枯れ葉くらいです私の平熱 きささぎ彼句言
ピストル型の体温計は、少し怖い感じでまだ慣れません。

葉閑女【ようかんによ・青森県青森市】

雪の日の訃報おもひで駆け巡る
やつと会えたのに 起きてよ、文子さん
花々に託す祈りと平安と
雪晴れのなか永訣の鐘が鳴る
トシさんに会えたでしょうか文子さん

先月号の
お気に入り

冬支度さいこの薔薇が咲いたらね 宮井いずみ
閑女庵の薔薇は春のまま凍っていました。

柳谷たかお【やなぎやたかお・青森県外ヶ浜町】

少年が海を渡って得た翼
まつすくな道を目に焼き付けている
目に見えぬものとの戦いは続く
耳を澄ましてる春来る方角に
生きていくつもりこの先カーブです

先月号の
お気に入り

コバエホイホイ私だつてホイホイ 守田啓子
この軽妙さ。いいなあ。

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

屋根雪の破落戸なれば見ないふり
共犯の雪の結晶窓に咲く
いだかれてどこもかしこも行き止まり
掌のひらの六花消えゆく残される
紫陽花の枯れ色と埋め通夜とする

先月号の
お気に入り

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

高い空遠い水平線アタシ
ひゅんひゅんとタケノコ伸びるのに飽きて
ここいらで迷えるだけ迷ってみる
今はただ空気を撫でて暮らします
四分休符 口のみをする瓶ビール

先月号のお気に入り
風船がハイイと言えば空ですね
そうなんです。そうなんです。そうなんです。吉松澄子

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

雪のんの新種のコロナ蹠に
神様の返歌三日三晩の雪嵐
春を待つさくら吹雪は習作に
言の葉のリボンをほどく誕生日
新聞を括る ことのは永久凍土

先月号のお気に入り

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

「おじゃまします」津軽海峡越えました
太陽礼拝ポーズ かかと起きろ
三連符ずれてトルコ行進曲
飛蚊症ざわめき合つて西の窓
白旗と草刈正雄流水初日

先月号のお気に入り
わらわらとカピバラ知りもしないくせに 奈良一艘
そんなカピバラの群れに目が離せません

米山明日歌【よねやますか・静岡県長泉町】

摺り足のままで夜までできてしまう
痛くない形に曲げてみる明日
コチジャンのように竹む父でした
あなたとは取るに足らない仲のまま
許さない形で月に絡みあう

先月号のお気に入り
それからは星の欠片が主食です 土田雅子
わたしは、時々おかずにしています。

渡邊こあき【わたなべこあき・青森県青森市】

バラバラと何度も落ちるカレンダー
ヨチヨチと歩くいつもの道雪の道
雪の朝降りましたねと炊飯器
又ねって手を振るクロコダイルバック
ずんずんと迫る雪庇を受け入れる

先月号のお気に入り
すぐタテに振るなと首に言っておく 村上てる
私も言っておこう。でも、すぐヨコに振るよりいいと思
います。

安藤なみ【あんだうなみ・愛知県瀬戸市】

ベリングキャットに月面からボール
モザイクの床である南極の地図
はなれへどうぞ 桜花ファーストのお出まし
デジタル化の義務と権利は胃袋へ
ゆつたりと世はこともなく移らない

先月号のお気に入り
発声練習声小さくなるように 吉田州花
同じく、です。

石橋芳山【いしばしほうざん・島根県松江市】

空想の中から赤いムニユの顔
蚊柱に追われ鯖缶に逃げ込む
不義多数わたしの顔になっていく
縮まらぬ距離に伸びきったラーメン
空想のいたるところに覗き穴

先月号のお気に入り

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

味噌を溶く再再婚の金魚の命
裸木の透き間を埋める私の仕事
観覧車果てる桃源郷を向く
なんだかなあ道頓堀に絆創膏
寒雀「一生懸命営業中」

先月号のお気に入り
よっこらしょとつこいしよあお生きて 柳谷たかお
毎朝洗濯物を二階に運ぶ折の私が私に掛ける応援歌。

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

焼芋を食して懸想しているか
美しく烏賊の塩辛更けてゆく
肌荒れしている専用駐車場
原形をとどめぬほどに利尿剤
血に惑う坂の上なる吊るし柿

先月号の
お気に入り

きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

握りこぶしを握り潰して眠れない
人でなしのピンク羽織つて会いに行く
素通りしてしまう微炭酸なセリフ
あれ以来心が濡れる片時雨
あなたは今もたつた一個の窓灯り

先月号の
お気に入り

水になる 置いてはゆけぬ人置いて 徳長 怜
水になる…よく分かります。

熊谷冬鼓【くまがいたうこ・青森県青森市】

三月の大皿に盛るばびふべぼ
干からびた牛蒡忘れていませんか
手に残るセロリの匂い訃報欄
春告げる聲に足首つかまれる
突っ伏してみてもなんにも生まれぬ

先月号の
お気に入り

手帳から金属音が出てゆかぬ 岩根彰子
私の手帳も時々キーキー言ってます

斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

毒消しの呪文をやつと手に入れた
手を放す 来るべき時が来てしまふ
攻めにくい低姿勢だな笑顔だな
しゃあしやあとしてる風向き変わるまで
罪でしよう関心示さないことは

先月号の
お気に入り

規子でいる時は小走りしてるのよ 村井規子
規子さん、どこでもドアを手に入れたかのようです。注
目中！

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

ボンジョビがパンドラの匣開けてます
操縦席に日の出を映しおめでとう
ちよつと一杯いかがですかと鴉鳴く
雪庭でじつと待つてる家なき子
雪はきらいビールが飲みたいだけ

先月号の
お気に入り

遺影です後はよろしく頼みます まみどり
ボクもそろそろ遺影をじゅんびしなくっちゃ

芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

ドがいのそれならドにもしてあげる
横道に入ってまたも団子虫
さあ皆んな良い子はやめて濁りましょ
どうしてもフラットしちゃう初日の出
哀しさは喉を通ると歌になり

先月号の
お気に入り

眠なので水平線にぶらさがる 石橋芳山
面白ーいおいらは地平線にぶらさがってみよう。

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

母ちゃんと呼べばトイレの閉まる音
電気を消してテレビを消して目が冴える
朝が来ておひとりさまの幸不幸
いいことがぎつとあるある握り飯
何もかも終わったようなNHK

先月号の
お気に入り

お天気がいいのに外れ籤ばかり 葉閑女
うんっん同感！こんな日あるね

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

早朝のミルクページュな髪の色
ニンゲンを作るしやぶしやぶ食べ放題
処刑完了天気予報はいつも春
息白き器用なキスの五秒前
今日もまた一生愛される覚悟

先月号の
お気に入り

くずダイヤ集め私の羅針盤 土田雅子
くずってなんか惹かれます。どこかハンパで斜に構えて
て、完成品よりカッコいい！

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

蜃気楼わかつているのに追っている
ひと筆で書いてみました僕の夢
ナメクジの落書き窓の外は雨
まだ年齢としじゃないと真つ赤なドレス着る
心臓に産毛が 恩を返したい

先月号の
お気に入り
覚悟決めたフラスナー下げた 夏草ふぶき
破調ビックリ！ 内容ビックリ！ 目がとまる作品。ど
このフラスナーだつて？ 決まってるでしょ（笑）

田久保亜蘭【たくぼあらん・秋田県五城目町】

銀座から馬一頭を連れ戻す
メガネ猿メガネをかけたまま死んだ
条件反射で月まで掬えない
打ちのめされて芸術が芸術を生む
五回生まれ変わつても君が恐い

先月号の
お気に入り
たいくつは楽しまなくちゃ耳の穴 熊谷冬鼓
普段「耳の穴」なんどつてもいいような気がしていたが、楽しんで
いいたなあと発見しました。楽しみ方を考えると夜も昼も眠れないなあ

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

極上の挨拶がわりの笑い顔
雪の日は雪を味わい暮らしてる
神棚の掃除ついでに頼むアレ
モナリザと目と目で話すなくんてね
日が昇る何かしなくちゃ伸びなくちゃ

先月号の
お気に入り
御破算にしようか二〇二〇年 葉 閑女
個人的には良いこともあった年だし・・・、うーん、だね。

土田雅子【つちだまさこ・青森県青森市】

夕まぐれ万歳ガール産まれ来る
コロナ禍を掻き分け無事にご出産
孫三号抱えて朝のスクワット
孫娘みんなパパ似の物語
バウンサーバンボバギーとジャンパルー

先月号の
お気に入り
引き出しを丸ごと捨てる金曜日 熊谷冬鼓
タンスごと捨てないと断捨離が間に合いません！

旅男【たびお・青森県五所川原市】

おう！こんな美人だったか 男の目
あつ！顔を変えたのね 女の眼
上々よ印刷賀状紙の情
初日から残り物めくおせちかな
休刊日朝のスープレの味を知る

先月号の
お気に入り
縮んでゆく時間穴掘ってる時間 守田啓子
気分的にピッタリです。墓穴じゃないんですけど。

田中薫【たなかかおる・青森県弘前市】

紙一重と思う命目配せして
優しさが抉れてこじれてフラダンス
一粒の命海のような空の色
くらくらい世弾けて「アムロ、行きます」
どないしまひよ支持率どんと低下して

先月号の
お気に入り
大丈夫大丈夫つて最期まで 土田雅子
わたしも最期はこう言いたいです。

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

聖書からポロリと落ちたマリア様
毒を盛るそりやあ女の特権で
揺さぶつてみてよ乱れてみたいもん
お汁粉を食べるなんでかちよい涙
手羽先のお焦げブラックホールだよ

先月号の
お気に入り
すぐタテに振るなと首に言っておく 村上てる
これは、ふふふ（笑）です

むぎし【むぎし・青森県蓬田村】

ピラニアとホオジロザメの合唱団
湯たんぽをタイムマシンと定義する
ウキスキーがなければ写楽になりません
地吹雪と菜花のサラダありますか
水平線から正方形が起き上がる

深読心理

所有者を探しています 冬ですが 中道文子
 巣立たせる 看取る 残される 野原 斎藤あまね

(おかしょうき川柳データベースより)

中道文子さんの句。09年12月・0番線・題詠「有」の入選句。人生を春夏秋冬に例えれば冬はまさに高齢者。作者もまた後期高齢者の域に達しはしたのだが、ただ齢を重ねただけで、自身はまだその年代に相応しい知識や人間としての威厳を持ち合わせていないと謙虚に否定している。所有者、冬の巧みな比喩で独特な世界観の川柳を醸し出していて不思議な迫力のある句。決して自分にも年齢にも甘えることなく己を高め向上しようとする姿勢には作者の凛とした矜持が見える。

斎藤あまねさんの句。09年6月・会員雑詠集・無人駅に掲載された句。

ゝる、ゝるの動詞の間に三つもの一字空け。時間経過を表すためののだろう。

掲句を何度も読み返してゆけばそれぞれのセンテンスがまるでサブリミナル効果として脳内に浸透し、作者の強いメッセージが伝わってくる。

子を育て巣立たせ、親の死を看取り、ただひとり寂しくこ

の世という野原に残される。人生の哀しい縮図をバラバラ漫画に例えているかのようだ。

残されるのが作者自身と捉えれば哀しみの句なのだが、残されるのが何か別のもの：例えば子孫という種としてみたらどうだろうか？ 残された種はいつれ芽吹いて見事な花を咲かせ、人間の営みは永遠に続くという人間賛歌の句になりはしないか。いや、そう捉えたい。

作者の眼には哀しみだけではなく、希望と明るい未来もきつと見えている筈なのだ。人生のバラバラ漫画は灯灯無尽として続く。

ずしんと胸に響く句である。

中道文子さんは本年の1月11日(享年91歳)、斎藤あまねさん(享年71歳)も奇しくも同じ日に手を取り合うかのよう

に逝去されました。

ここに謹んでお悔やみとご冥福をお祈り申し上げます。

一艘



▼投句者 (52名・到着順)

| | |
|----------------|---------------|
| 入り江わに (神奈川県) | 葉閑女 (青森県) |
| いなだ豆乃助 (埼玉県) | きさらぎ彼句吾 (青森県) |
| 三好光明 (愛知県) | 小沢史 (東京都) |
| 斉尾くにこ (鳥取県) | 須藤しんのすけ (青森県) |
| 安藤なみ (愛知県) | 夏草ふぶき (青森県) |
| 中村暁代 (岩手県) | 郷田みや (愛媛県) |
| 西沢葉火 (長野県) | 土田雅子 (青森県) |
| 米山明日歌 (静岡県) | 笹田隆志 (青森県) |
| 吉松澄子 (愛媛県) | 鳴海賢治 (青森県) |
| 岩根彰子 (京都府) | 石橋芳山 (島根県) |
| 宮井いずみ (大阪府) | まきこ (青森県) |
| 尾崎良仁 (千葉県) | むさし (青森県) |
| 芝岡かんえもん (神奈川県) | 守田啓子 (青森県) |
| 城後朱美 (福岡県) | 熊谷冬鼓 (青森県) |
| 旅男 (青森県) | 奈良一艘 (青森県) |
| 紫の園 (東京都) | まみどり (青森県) |
| 柳本恵子 (奈良県) | 斎藤泰子 (秋田県) |
| 寺川弘一 (大阪府) | 四ツ屋いずみ (北海道) |
| 峯島妙 (大阪府) | 徳長 怜 (徳島県) |
| 吉田吹喜 (青森県) | 田中 薫 (青森県) |
| 佐藤寿見子 (青森県) | 村井規子 (青森県) |
| 田久保亜蘭 (秋田県) | 笹田かなえ (青森県) |
| 村上あつこ (青森県) | 菊池 京 (青森県) |
| 青砥和子 (愛知県) | 三浦蒼鬼 (青森県) |
| 坂本清乃 (青森県) | ひとは (青森県) |
| 岸井ふさゑ (大阪府) | 川嶋 翔 (青森県) |

おかしょうき川柳社

2月ステイホーム誌上句会

宿題『戸』

長野県長野市 西沢葉火選

【佳作】

トイレの落書きから宣戦布告
 戸籍上の花になりたい吾赤紅
 巢ごもりに鯖缶開ける戸冠
 戸を開けてごらん第一発見者
 夕暮れの網戸に群れてくる義眼
 戸車が外れて前期高齢者
 格子戸がドアになる夫婦別姓
 赤チンを塗りたくつてる一戸建
 手に入れたい男戸袋に隠れ
 豆三つ出入り自由です引き戸
 どきどきは杞憂でしたわ戸籍謄本
 ノックして覚醒すればミュージズです
 引戸にしましたこつそり逢いに来て
 ただいまが一番好きな玄関戸
 シリウスの尻尾を挟む自動ドア

菊池 京
 きさらぎ彼句吾
 坂本清乃
 吉松澄子
 小沢 史
 ひとは
 まみどり
 芝岡かんもん
 田久保亜蘭
 郷田みや
 四ツ屋いずみ
 川嶋 翔
 土田雅子
 柳本恵子
 安藤なみ

宿題『尖る』

青森県青森市 菊池 京選

【佳作】

ヤンキーが成人式で尖れない
 刺されたら痛いと思う天の川
 ぼろぼろのデニムで華やかなピアノ
 むきみ隈 洒落たお店を予約する
 ノーと言う井川遙の唇で
 カタカナに削られじいさんが尖る
 ピンヒール履いてふるさと歩けない
 誉め言葉からまち針が覗いてる
 尖らずに帝王学を身につけよ
 ポケットチーフの生真面目な鋭角
 矢印を辿るとそこは焼却炉
 つま先の尖った靴で掘った穴
 尖るのをやめた動物園の猿
 磨いた牙は毎日糞に喰われてる
 税務署の一円玉が尖つてる

入り江わに
 いなだ豆乃助
 宮井いずみ
 旅 男
 峯島 妙
 石橋芳山
 斎藤泰子
 三浦蒼鬼
 葉 閑女
 徳長 怜
 鳴海賢治
 まみどり
 城後朱美
 村上あつこ
 田久保亜蘭

戸籍には載らない犬ともうひとり
 斜めつてる人事部の観音扉
 くるぶしがみつつ戸口に置いてある
 一戸、二戸、三戸目あたり虚言癖
 戸を叩くいいえわたしは風じゃやない

【五客】

尾崎良仁

まき こ

田久保亜蘭

いなだ豆乃助

田中 薫

佐藤寿見子

須藤しのすけ

◆反発を覚悟して書きますが、『おかしょうき』の選者になれば、もつと刺
 激をもらえらると思つていました。もしもまた選をさせてもらえらる機会があ
 るなら、更なる挑発を期待します◆【天】一文字の空白に秘められたドラ
 マ。仕掛けられたのは奴等の罠か、それとも恋の駆け引きか◆【地】存在
 証明など要らない。存在するために食べて、生きる。それだけのこと◆【人】
 曝されてしまった日常。悲劇を語るための悲劇。冷たい展示室の中で◆

須藤しのすけ

笹田隆志

須藤しのすけ

徳長 怜

青砥和子

鳴海賢治

宮井いずみ

小沢 史

守田啓子

郷田みや

安藤なみ

宮井いずみ

まき こ

徳長 怜

吉松澄子

川嶋 翔

懐柔希望尖ったままの垂れ雪

【天位】 この春の講座「ほどよい尖り方」

【地位】 尖つたらケースに入れてくれました

【人位】 とんがって必死な姿でしがみ付いているのもう限界。ここは
 敵の手の内に乗って溶けてみるのもありかな…つて声が聞こえたよう
 な。【地位】 尖るにもお作法があるようです。春なので耳たぶ位の固さ
 の尖り方を教わってみたいです。【人位】 ごねてダメなら尖ってみました？
 めでたくVIP待遇になったようですが、寂しい箱の中暮らしになり
 ませんように。とんがれるのは、とんがる先があつてこそです。

宿題『自由詠』

青森県外ヶ浜町 Sin 選

【佳作】

戯れの火遊びやんごとなき指で
 落葉期やつと自分を着こなせた
 結びましょ引き解け結び姦淫行
 ゴメンネが伸びてちじんてまた伸びる
 黄昏やぞつとして雨あがり
 友達だった錯覚だったマイナス5度
 ドアを開けるとペグマンが立っていた
 採め事の処理に托卵繰り返す
 ラーメン屋へ潜る赤い月連れて
 正解は雪見だいふくだとしても
 地吹雪の赤を生け捕りして眠る
 認証拒否 身籠つてなどおりませぬ
 逃げ切ろうポッケに春をひとにぎり
 否定から入る雨垂れ持つて出る
 稜線を見ている 何も見ていない

奈良一艘
 きさらぎ彼句吾
 旅 男
 吉田吹喜
 芝岡かんえもん
 佐藤寿見子
 徳長 怜
 石橋芳山
 岩根彰子
 郷田みや
 三浦蒼鬼
 葉 閑女
 斎藤泰子
 守田啓子
 斉尾くにこ

十和田たてがみ川柳会 一月句会

【参加者】 木村奈生美・斉藤蛙井・佐藤まさあき

瀧尻善英・福田芳記・村上昌子・高田幸柳

【投句者】 磯島雅男・漆館ミノリ・城後朱美

■席題『湯』 高田 幸柳 選

【平抜き】

湯の中にお国ことばが浮き沈み
 風邪引きに母の重湯が良い葉
 お茶の湯に甘い苦いが潜んでる
 茶の湯から礼儀を学び持ち帰る
 祖母と留守鉄瓶時計だけしゃべる
 羊水に居るよう心地湯の香り
 美人の湯美人ばかりと限らない

斉藤 蛙井
 佐藤まさあき
 村上 昌子
 木村奈生美
 村上 昌子
 瀧尻 善英
 瀧尻 善英
 福田 芳記
 木村奈生美

【秀逸】

どき湯さの省エネ会話津軽弁
湯豆腐も情けも熱い雪の街

消し炭の奥のほうから赤い舌
 生きているかと鏡の頬をつねる
 春なのにあらぬ墓穴を掘っている
 仕方ないなあつて又象を呑みこむ
 ゆみちゃんのいないベンチで待つ知らせ

【五客】

港になれずにおぼさんになつちやつた。
 絵の中の女が脱ぐと言っている
 湯ノ花か垢か夜明けか死神か
 但し書きつけた体で逢いにいく
 他人とは思えず青を口移し

【人位】

もやもやとゼブラゾーンに長居する 青砥和子

【地位】

まな板の凹みの中の天城越え 米山明日歌

【天位】

くちびるか八朔どちらかを盗む 石橋芳山

◆【天】前者が準強制わいせつ罪で6ヶ月以上10年以下の懲役。後者が窃盗罪で10年以下の懲役又は50万円以下の罰金。うくん、人間って頭の中で犯罪を犯すことで、日々、良識を保てる生き物なのかもしれない◆

【特選】

元氣よく立派「おしるし」ある産湯 瀧尻 善英

■席題『湯』 瀧尻 善英 選

【平抜き】

祖母と留守鉄瓶時計だけしゃべる
 お茶の湯に甘い苦いが潜んでる
 冷え気味の夫婦関係お湯で割る
 風邪引きに母の重湯が良い葉
 温かいコーヒー今朝を整える
 どき湯さの省エネ会話津軽弁
 湯豆腐も情けも熱い雪の街

村上 昌子
 村上 昌子
 高田 幸柳
 佐藤まさあき
 高田 幸柳
 福田 芳記
 木村奈生美
 斉藤 蛙井
 木村奈生美
 佐藤まさあき

【秀逸】

湯の中にお国ことばが浮き沈み
茶の湯から礼儀を学び持ち帰る

【特選】

満月を湯が揺らしてる露天風呂

■宿題 『愉快』

村上 昌子 選

【平抜き】

これからは愉快にゆくぞ傘寿すぎ
おべっかも愉快も混じる無礼講
負け惜しみ愉快になれぬ捨て台詞
ジーンズの穴でジタバタする彼女
学びこそ脳を愉快にする薬
良い笑顔気持ち愉快にして呉れる
口角を上げよう愉快になつてくる
自信作選ばれ句会の帰り途
学童の飛び交う声について笑顔
アマビエがコロナ退治する夢を見た
脱炭素地球愉快になれますか

【秀逸】

策略がはまり笑いが止まらない
意地悪な上司左遷へ大ジョッキ

【特選】

一升瓶下げても愉快な人が来る

斉藤 蛙井
磯島 雅男
高田 幸柳
瀧尻 善英
福田 芳記
木村奈生美
瀧尻 善英
福田 芳記
漆館ミノリ
佐藤まさあき
斉藤 蛙井

高田 幸柳
瀧尻 善英

城後 朱美

■宿題 『譲る』

斉藤 蛙井 選

【平抜き】

良い人になって譲っている座席
霊柩車救急車には先譲り
DNA貧乏ゆすりは親譲り
相伝の味譲られた暖簾分け
不用品譲り譲られ再利用
娘には何でも譲る母である
譲る事知らず損する自己主張
真実を後日にゆずるアベ説明
息子嫁には譲りたくないものばかり
辛酸を舐めた人には譲りたい
お下がりか戦後日本を下支え

【秀逸】

エプロンを譲りヘルパー断つ未練
遺産には笑い話をあげましょう

【特選】

片えくぼくつきりこれも母譲り

木村奈生美
瀧尻 善英
佐藤まさあき
高田 幸柳
城後 朱美
木村奈生美
福田 芳記
城後 朱美
瀧尻 善英
高田 幸柳

村上 昌子
村上 昌子

村上 昌子

■互選 『ゆつたり』

- ①お父さん家では和服遠くなり
- ①ゆつたりと過ごせる我が家有り難い
- ①肩書の鎧を脱いでいる無邪気
- ①平穏にゆつたりできる春を待つ
- ①帰宅して狭い我が家が城のよう
- ②家事終えて手足伸ばした仕舞い風呂
- ②露天風呂天下取るよな一人占め
- ②定年後ゆつたり暮らす筈だった
- ②野に下りしがらみ捨てた太公望

福田 芳記
木村奈生美
瀧尻 善英
高田 幸柳
漆館ミノリ
佐藤まさあき
佐藤まさあき
木村奈生美
瀧尻 善英

■十和田たてがみ川柳会3月句会案内

【時】3月20日(土) 午前10時から 【所】十和田労働福祉会館【宿題】(各題三句詠)『落語』村上昌子選／『ラック』斉藤蛙井選【互選】(二句詠)『ラジオ』当日出席者のみ(句箋の裏に雅号記入)【席題】一題(三句詠・共撰)／選者は瀧尻善英ほか出席者から一名【投句先】〒034-0049 十和田市西二十二番町2-21 十和田労働福祉会館 高田幸柳あて

「チャレンジ川柳! むさし流!」のブログはこちら

川柳吟行会「ぽ」

課題『新』

今回から感染対策をしつつ合評会を復活させた。投句の参加者は16名で集まった句は48句。この日は大寒で交通機関も遅れがちな凍れた一日だった。自粛続きで他人と会う機会がめっきり減った昨今、久々の顔合わせに会話も弾んだ。自分とは別の解釈だったり、比喩の読み解きだったりと気づかされたことも多い合評会だった。ワクワクン接種も始まったことだし、集まって吟行できる日もそんなに遠くないかもしれない。(冬鼓)

【10点 特×4・佳×2

踏んだかもしれない新しいあなた 柳本恵子

【かなえ】踏んだかもしれない足の感触が伝わってくるようだ。「新しいあなた」の所在なさに不安と恍惚が入り混じっている。【こあき】「新しいあなた」は「新しい自分自身」。新しいスタートができなかったのは踏んで

【4点 特×2

あらたまの白いページが暴風雪 滋野さち

【吉見恵子】それぞれの言葉が、清新生白のイメージであるが、最後の「暴風雪」で、静から動に変化して新年早々の一大事、コロナ禍の爆発的增加を表現しているようだ。【ふぶき】あらたまのまつすくな勢いが渦巻く暴風雪とマッチして、映像として見えるようだった。

【4点 特×1・佳×2

お立ち寄りください春の新居です 宮井いずみ

【さち】ずっと続いてきた自粛生活。春の新居に招かれたら嬉しい。新年の希望をお分けしますぜひ誘ってください。【かなえ】「春の新居」が明るくて元気をもらった。【五郎】意表をつく発想。軽快な表現。

【4点 佳×4

新郎が面倒なことになっている 小野五郎

【旅男】皇室のこと？でなくても今の世は男がだらしない。【啓子】思わせぶりの仕立て方が楽しい。「どうした?」と聞いてしまいそう。【さち】「なんだ」「どうした」と週刊誌ばりの野次馬になってしまった。【こあき】なんだなんだ愛人発覚か。「面倒なこと」が想像をかき立てる。

しまったからだ。【五郎】思い通りにいかない人の世の有様を簡明に表現した。情感がこもっている。【文音】したかも知れないという思いが年令のせいか日常多い。この句のそれが新しいあなたを踏んだかともいう思いがとてもしないと思います。【彰子】かも知れない。なんとおらかな愛なんでしょう。【さち】踏んづけちゃったのは私かも。あつ、しまった。

【7点 特×3・佳×1

しんによるの決壊うまれたてのわたし 守田啓子

【妙】自分自身を囲っていたものが外れて、新しく踏み出した。コロナや大雪など疎外感が強い中で、未来への明るさを感じます。【いずみ】今まで歩いてきた道が壊れて、新しい生活。築ではないだろうが、前向きな決意が感じられる。【冬鼓】部首のしんによるの形は行く手を阻む形か。決壊して生まれ変わらざるを得ない。部首に思いを乗せた表現が独自。【ふぶき】ルーズなものを壊すところが心地よい。

【3点 特×1・佳×1

新巻をノラと分け合う小正月 滋野さち

【隆志】コロナ禍のなかで、せめてゆつたりとしていた気持ちはこの句は感じさせます。漱石の「吾輩は猫である」を思い出しました。【吉見恵子】「ノラ」は、猫かも知れないし、無職の人や居候かもしれないが、分け合う関係がどこか微笑ましく二人の絵も見えている。

冬の虹そして展げる道具箱 岩根彰子

【啓子】すぐ消える冬の虹を空に釘で留めておこうとでもいうのか。人の命の儚さとけなげさを感じさせる。【冬鼓】虹を捉まえるには大きな道具がいる。展げるで大きさを表現。

若水で家族を洗う気を洗う 旅男

【柳本恵子】若水という言葉の持つ清々しきで、新を表わしたのはすごいです。奈良三月のお水取りという行事とかさなりました。【五郎】新年の気分を素直に表現した。

人もまた花鳥の一部 一月一日 福田文音

【彰子】花鳥の一部とは…比喩が謙虚で美しい。【紫の園】

一月一日は季語となり、その意味で人も花鳥に含まれるとの気づきがよいと思います。

【3点】佳×3

新字体になったら恋がつまらない 笹田かなえ

【妙】共鳴するのは同世代だからでしょうか？リケジョにもお聞きしたい。【隆志】芥川龍之介や谷崎潤一郎の恋文が読みたくなりました。【冬鼓】出会いも別れもスマホ。味気ないメール世代を新字体と表現したか。さりとて旧字体の恋は重いかも。

【2点】特×1

とめどない愚痴にかぶせる新聞紙 宮井いずみ

【旅男】朝から、とめどないグチは聞きたくないから新聞に逃げる。ありますねえ、私はヘルメット代わりに新聞をかぶります。

出番待つ新芽が雪を奏でてる 熊谷冬鼓

【紫の園】春待つ準備をしている新芽が早く出たいと、上に被さっている白い雪を振動させている、その様子を「奏でてる」と表現したことが素晴らしい、と思いました。

秘密は必ず守る新雪です 柳本恵子

【かなえ】初々しくて健気な決意。新雪が眩しい。

途方に暮れて 去年新色のルージュ 笹田かなえ

【啓子】恋人に会ってマスクを外すシーンのためのルージュ探しか。南こうせつ「夢一夜」を彷彿とさせる。

手を少し伸ばせば叶うを書初めに 熊谷冬鼓

【隆志】手を少し伸ばせば叶うという気持ちが大切です。

新雪へ踏み出す 一步二歩三歩 渡邊こあき

【紫の園】新しく降った真っ白な雪の上をいざ足跡をつけて、踏み出していくその勇気を一步二歩三歩とリズムカルに表現したことがとてもよく、また新年を迎えて自分の意気込みも表していてよい句に仕上げています。

新しい橋渡ろうとネジを巻く 夏草ふぶき

【文音】新しい橋は人それぞれ、ネジも新しくしなくては！

新聞の君の体温冷たくて 夏草ふぶき

【2点】佳×2

新雪に新雪つもる陽性者 吉見恵子

【柳本恵子】つもる陽性者が止まる時を知っているのは、神のみぞ【いずみ】降りやまぬ雪と増え続ける感染者。令和三年一月そのものだ。

松のみみあげ新雪ふりつづく 柳本恵子

【旅男】俳句風にきれいです。憂鬱に庭を眺めていますか。【こあき】雪も松のみみあげくらいならかわいいが降り続くと松も怪獣になる。

今年こそ新種の鳥を産み落とす 滋野さち

【いずみ】新種の鳥は何か、読み手にゆだねられていて、私ならと考えてしまう【ふぶき】新しい希望が生まれることに期待です

【1点】佳×1

新年という襖の一步きりぎりす 吉見恵子

【柳本恵子】新しい年は気持ちも新たになるものですね

【妙】時事川柳と受け取りました。記者会見も凍り付きそうです。

新型のウィルスだった君の風 夏草ふぶき

【吉見恵子】「君」との出会いの衝撃を「新型ウィルス」と表現していて新鮮さを感じられた。

新手です奇妙な風が吹いています 渡邊こあき

【文音】奇妙なコロナ風が吹いています。新手が欲しいです。

運勢をマゼランに訊く初日の出 笹田隆志

【彰子】マゼラン（人名）マゼラン雲マゼラン海峡（マゼランが通過）大吉ですとも！

■会費拝受【1月受付分】

安藤なみ(愛知県)/田久保亜蘭(秋田県)/藤田めぐみ(東京都)/旅男(五所川原市)/田中薫・吉田吹喜(以上弘前市)/菊池京・村上てる(以上青森市)/白戸まつ子(つがる市)

■おかじょうき川柳社会員募集中!

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名:おかじょうき川柳社

→会費:6,000円(1年分)

おかじょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

〒039-3502 青森市久栗坂浜田87-2

●投句全般についてはこちらへ●

守田啓子 moriko@okajoki.com

終着駅 Sin

◆いま、若い人を中心に18歳の女子高校生が歌う楽曲「うっせえわ」が大ヒットしている。歌い手などのYoutuber達も軒並みカバーするなど、曲の動画再生回数も、もうすぐ1億回を超えるだろう◆そこに来て、これまたお約束のように「教育上良くない」と騒ぎ立てる人たちが出始めた。問題となっているのは「うっせえ うっせえ うっせえわ」というサビのところだけだと思うが、子供にあれこれ言うと、このサビを歌い返すようになったのだという。ま、この歌が教育上どうなのかわからないが、流行ってる曲のサビとはいえ、子供にこう言われる親の教育もあまり良くないと思うのだが(笑)◆得てして、こういうことを言い出す親に限って、カラオケを歌わせると尾崎豊の「卒業」を大合唱しはじめ

たりするやつだったりする。尾崎豊といえ、校舎の窓ガラスを壊しまわったり、校舎の裏でタバコを吹かしたり、盗んだバイクで走り出したりする人だ。当時は尾崎豊は教育上良くないと問題視されていた。だからといって、みんながそうしたかと言えば、していない。出来ない自分に変わって代弁してくれている尾崎豊を応援することで、大人への反抗心を満たしていたというのが、大半だろう◆「うっせえわ」とはいろいろな違いがあるにせよ、この曲によって、若い世代がカタルシスを得られているのならば、尾崎豊と同じような効果なのだろう◆若い世代の表現狩りをするより、その表現が流行するような社会になっているという、我々大人の責任も棚上げないようにしなければいけない◆Sin

□ 2021.04.20 第69回 蟹の目 誌上大会

【課題】「指」1口2句(何口でも可)11名による共選 清記選【選者】浅利猪一郎(秋田)/月波与生(宮城)/興津幸代(長野)/徳永政二(滋賀)/佐藤文子(愛知)/橋倉久美子(三重)/樋口由紀子(兵庫)/こうだひでお(京都)/吉松澄子(愛媛)/松永千秋(福岡)/岡本聡(石川)【締切】令和3年4月20日(当日消印有効)【投句料】1,000円(郵便小為替等)発表誌呈【投句用紙】指定用紙または便箋等 住所・氏名・電話番号明記【賞】蟹の目大賞(最優秀句1名)句入り金箔楯/優秀句賞(2~10位)金沢名産品/各選者特選賞 竹久夢二金箔葉【採点】各選者 特選3点・秀逸2点・平拔1点 合計点にて入賞作品決定【発表】柳誌「蟹の目」7月号【主催及び投句先】〒924-0831 石川県白山市藤波1-4-8岡本方 蟹の目川柳社 電話・Fax 076-275-5161

□ 2021.05.31 第63回「不浪人賞」/第51回「年度賞」候補句募集

【応募資格】青森県在住者【応募料】青森県川柳連盟加入吟社に所属している方は無料。無所属の方、連盟日より(結果)の個人送付希望者はその旨を明記のうえ百円切手を同封ください(不浪人賞・年度賞1位に呈賞)【対象作品】令和2年1~12月に発表された作品。「不浪人賞」・「年度賞」のどちらか、または両方の応募可(2賞への同一句の応募は不可)【応募用紙】所定用紙(コピー可)またはA4の用紙を使用し、楷書で不浪人賞(3句)と年度賞(5句)を分け、それぞれに住所・氏名・電話番号を記入ください。【締切】令和3年5月31日(当日消印有効)【発表】本賞の速報を各柳誌に掲載。結果詳細は「青森県川柳連盟だより」にて。なお連盟だよりの送付ですが、基本的に所属吟社に一括送付致しますので応募の際は所属吟社記入のこと。【表彰】令和3年9月23日(祝)川柳忌黒石川柳大会にて(予定)。*各賞1位に賞状と記念品【送り先】〒038-3288 つがる市木造出来島33 青森県川柳連盟「不浪人賞・年度賞」係【選者】★不浪人賞(6名)渡辺梢(埼玉)・赤松ますみ(大阪)・鎌田京子(宮城)・新家完司(鳥取)・島田駱舟(千葉)・野沢省悟(青森)★年度賞(10名)長谷川酔月(秋田)・熊谷岳朗(岩手)・雫石隆子(宮城)・山口まもる(山形)・小林左登流(福島)/千鳥鉄男・むさし・工藤青夏・笹田かなえ・田鎖晴天【連絡先】青森県川柳連盟事務局 濱山哲也 Tel 080-5574-9297【主催】青森県川柳連盟

おかじょうき川柳社 作品募集案内

□ 2021.03.10 「川柳吟行会 ぼ」3月句会

【投句締切】3月10日（第2水曜日）【題・投句数】「別」3句【投句先】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *吟行不可につき投句による句会とします。参加者全員による選・選評をメールで交換。後日月刊おかじょうきに掲載。メール交換できる方ならどなたでも参加可。

□ 2021.03.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句（5月号分）

【締切】3月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句（最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入）【掲載】5/10発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2021.04.03 おかじょうき川柳社本社4月句会

【時】4月3日（土）午後1時～【所】アウガ5階小会議室【投句締切】4月2日（金）15時【宿題】（各題3句詠）『荷』/『匂い』/『自由詠』選者は当日参加者から選出【席題】1題3句詠・2人共選【川柳ラボ】互選句「記号を使った句」1句【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/>【メールで直接送信投句】moriko@okajoki.com（守田啓子）■投句、句会参加はおかじょうき川柳社会員のみとし、句会参加の際は新型コロナ感染対策に協力願います。

□ 2021.04.14 「川柳吟行会 ぼ」4月句会

【投句締切】4月14日（第2水曜日）【題・投句数】「花」3句【投句先】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *それぞれの場所で一人吟行での作句をし投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。後日月刊おかじょうきに掲載。メール交換できる方ならどなたでも参加可。

□ 2021.05.01 おかじょうき川柳社本社5月句会

【時】5月1日（土）午後1時～【所】アウガ5階小会議室【投句締切】4月30日（金）15時【宿題】（各題3句詠）『沼』/『ぬるい』/『自由詠』選者は当日の参加者より選出【席題】1題3句詠・2人共選【川柳ラボ】互選句「破調の句」1句【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/>【メールで直接送信投句】moriko@okajoki.com（守田啓子）■投句、句会参加はおかじょうき川柳社会員のみとし、句会参加の際は新型コロナ感染対策に協力願います。

